

横綱よこ綱になって故郷こきょうに恩返しおんがえしを 太刀山たちやま 峰右衛門みねえもん

大相撲おおずもうの第22代横綱

56連勝だいきりくの大記録

呉羽くれは小学校に相撲場すまふを寄付



1877 (明治10) 年8月15日—1941 (昭和16) 年4月3日

村で評判ひょうばんの力持ちの大男

太刀山たちやまは本名を老本らほん弥次郎やじろうといいます。婦負郡むねぐん吉作村よしかくむら (現富山市) で農業いんぎょうと製茶業せいちゃぎょうを営む家の二男に生まれました。小さいときから大きな体格たいかくで力

も強かったので、茶葉ちあはを手でもむ仕事しごとの手伝いてつだいをさせると良いお茶ができたといわれています。18歳のときに兄が病死びんじしたため、家の跡あとを継つぎました。



太刀山の誕生地たぢやまのたんじょうちの碑いし(富山市吉作)



太刀山が入門かっやくしたときの写真しやうしん(「太刀山」より)

板垣退助いたがきたいすけの説得せつとくで入門かっやくを決意

弥次郎やじろうは20歳のときの身長しんちやうは184.2cm、体重たいじゆうは78.9kgありました。1898 (明治31) 年、大相撲おおずもうの地方巡業じふんぎやうが富山で行われたとき、弥次郎のうわさを耳にした友綱親方ともづなのおやぢから入門かっやくを勧められましたが、弥次郎は家の跡継ぎあとつぎだったため断ことわりました。

親方おやぢはあきらめきれず、東京へ帰かえってから部屋むまの後援者こうえんしやであった板垣退助いたがきたいすけに協力きやうりきを求めました。板垣退助は富山県知事ふやまけんちしに働きかけ、今度は知事ちしから父が説得せつとくされました。父親ちちは入門かっやくを認めることにしましたが、弥次郎はまだ気乗りがしませんでした。

次に弥次郎は「東京見物とうきやうけんぶつにこないか」と親方おやぢから誘さそわれました。弥次郎が上京じやうきやうすると、親方おやぢと板垣退助いたがきたいすけが二人がかりで弥次郎を説得せつとくしました。弥次郎はようやく入門かっやくを決意けつぎしました。

次は知事ちしから父が説得せつとくされました。父親ちちは入門かっやくを認めることにしましたが、弥次郎はまだ気乗りがしませんでした。

めきめきと力をつけて初優勝はつゆうしやう

しこ名なは板垣退助いたがきたいすけが故郷こきょうの立山たちやまにちなんで「太刀山たちやま峰右衛門みねえもん」と命名めいめいしました。「太刀山」は立山の古い呼び方です。太刀山はけいこに励はげみ、「突っ張り」と「吊り」を得意とくぎとする力士りきしに育そだっていきました。

太刀山は1900 (明治33) 年5月場所まぐしたばつどひやうに幕下まくしたで初土俵はつどひやうを踏ふみました。けいこに励はげんでめきめき力ちからをつけ、負け越まけこしなしてスピード出世しゅっしし、1905 (明治38) 年5月場所まぐしたばつどひやう

所で関脇せきわきに昇進しやうしんしました。

太刀山は、一突き半ひとつきはんで相手あいてを土俵どひやうの外とに跳ね飛ばとすことから「四十五日しじゅうごにち」(一月半) と呼よばれた「突っ張り」のほか、大きな身体ていしで繰くりり出す「仏壇返しぶつだんがえし」を得意とくぎ技わざにし、向かうところ敵なしあいてなしの強さちからでした。

大関おおせきになった1909 (明治42) 年6月場所まぐしたばつどひやうと翌年あつね1月場所いちげつばつどひやうに連続れんぞくして準優勝じゆんゆうしやうしたあと、次の年の6月場所むつきげつばつどひやうに初優勝はつゆうしやうしました。



新聞社しんぶんしゃから贈おくりられた記念きねんの銀杯ぎんぱい(富山市立呉羽くれは小学校蔵)

* 仏壇返し【ぶつだんがえし】 正式名称せいしめいしやうは「呼び戻し」。両力士りやうりきしが互たがひいに四よつに組み、互たがひいにまわしをつかんだ状態じたいから、上手投げうでなげのように片方かたはうの手で相手のまわしを引き、相手力士あいてりきしが踏ん張ふみかったところで今度は逆さかの手を激ししく突き返かえす技わざです。

無敵むてきの大横綱おおよこづなとして活躍かつやく

次の場所ばしょも優勝ゆうしやうし、太刀山たちやまは連続れんぞく優勝ゆうしやうを果たなしました。このとき、太刀山は第22代横綱よこ綱に推おされ、正横綱せいよこ綱となりました。

この時期きじは大相撲おおずもうで越中えちゅう出身しゆしん力士りきしが活躍かつやくした時代じだいでした。1912 (明治45) 年1月場所いちげつばつどひやうの番付ばんづを見ると、横綱よこ綱に太刀山たちやま、梅ヶ谷うめがたに、小結こむすびに玉椿たまつばき、前頭まへづなに緑島みどりしま、黒瀬川くろせがわ、寒玉かんたま子こという力士りきしが名なを連つねています。

太刀山は1918 (大正7) 年1月場所いちげつばつどひやうを最後さいごに引退いんたいするまで、優勝ゆうしやうが大関おおせきで2回、横綱よこ綱で7回、合わせて9回ありました。この間43連勝よんじゅうさんれんしやうのあと1敗ひたひして連勝れんしやうが途切とぎれたものの、次の日からまた56連勝ごじゅうろくれんしやうするという記録きらくを残のこしています。幕内まくうちの通算つうさんの成績しやうせきは195勝27敗せうで勝率しょうりつはおよそ88%でした。横綱よこ綱になってからの14場所ばしょでは84勝しょうして3敗ひたひしかせず、96.5%の勝率しょうりつを誇ほりました。

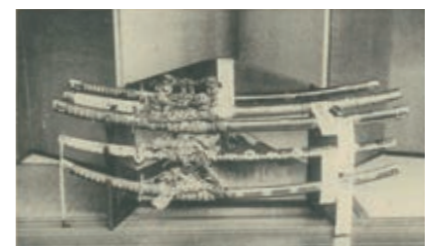
太刀山は1917 (大正6) 年1月場所いちげつばつどひやう (当時は10日間) で9勝1敗せうの好成績こうせいせきでしたが、優勝ゆうしやうを逃のがし、この

ころから力の限界げんかひを感じ始めかんめます。そして次の年の1月場所いちげつばつどひやうの後に引退いんたいしました。40歳よんじゅうさいになっていました。

1940 (昭和15) 年、太刀山たちやまが故郷こきょうの西呉羽村さいくれはむらへ寄付きふしたお金かねで呉羽小学校くれはしょうがくに「相撲殿すまふ」が建設けんせつされ、現在いまも使つかわれています。呉羽地区くれはちくでは、今でも相撲すまふや柔道じゆうだうが盛さかんです。



勝力角大館技園於かつりきかくおほせきえん 1910 (明治43) 年6月の大角力勝負星取表おほかくりきしょうふしやう (部分) (富山市郷土博物館蔵)



前田利為侯爵まへだとしなりこうしやくから太刀山たちやまに贈おくりられた刀やいば (「太刀山」より)



太刀山の横綱土俵入りよこ綱どひやういり (「太刀山」より)

夢ゆめや志しをかなえたポイント

- やると決めたことは、精一杯せいいつぱい努力どりやくする
- だれにも負けない特技とくぎをもつ
- 故郷こきょうに感謝かんしゃの気持ちこころをもつ

* 還暦【かんれき】 数え年で61歳さいをいう語ことばです。

- 1877 (明治10) 0歳さい
婦負郡吉作村むねぐんよしかくむらの老本家らほんかに生まれる
- 1899 (明治32) 22歳
相撲界すまふかいに入り太刀山峰右衛門たちやまみねえもんと名乗なる
- 1900 (明治33) 23歳
幕下まくしたになり全勝優勝ぜんしやうゆうしやうする
- 1905 (明治38) 28歳
関脇せきわきになる
- 1907 (明治40) 30歳
けいこをつけてくれた横綱常陸山よこ綱つねりつやまに初めて勝かちつ
- 1909 (明治42) 32歳
大関おおせきになる
- 1911 (明治44) 34歳
22代目の横綱よこ綱になる
- 1916 (大正5) 39歳
9回目の優勝ゆうしやうをする
- 1918 (大正7) 40歳
相撲界すまふかいを引退いんたいする
- 1941 (昭和16) 63歳
東京大久保とうきやうおほくほの自宅じやたくで脳出血のうしゅつけつのため亡なくなる

コラム 元気に還暦相撲を披露した太刀山

太刀山たちやまは胃腸いちやうに病氣びやうきをもっていたので、治療ちりやうのために休場きゅうばすることも多い力士りきしでした。このため、当時の力士たいていには珍めづしく食事じきなどに気きを使つかっていました。

太刀山は1937 (昭和12) 年、上野のレストラン・精養軒せいやうけんで赤い綱あかを締ひめて、大相撲おおずもう史上しやうし初めての還暦かんれき*土俵入りどひやういりを行いました。健康けんこうを心がけていたからこそ、元気に還暦かんれきを迎むかえることができたのです。



太刀山の姿すがたを写した版画はんが (富山市郷土博物館蔵)